

## 事故発生のメカニズムについて

平成 29 年 1 月 21 日  
記者会見時配布資料

事故発生メカニズムの特定には至っていないが、現時点において当委員会では、入手した資料等を基に下記およびその複合である可能性について議論している。

	想定メカニズム 1	想定メカニズム 2	想定メカニズム 3
概念図			
概要	<p>トンネル天端部の難透水性風化岩が、その上部に存在する未固結帯水砂層からの水圧や土圧に耐え切れず、トンネル天端部に緩みや亀裂が発生し、そこから地下水が噴出するとともに上部未固結帯水砂層が流出し、地表面陥没に至った。</p>	<p>トンネル天端部の難透水性風化岩が、ブロック状に抜け落ちたため、局所的に薄くなり、その上部に存在する未固結帯水砂層からの水圧や土圧に耐え切れず緩みや亀裂が発生し、そこから地下水が噴出するとともに上部未固結帯水砂層が流出し、地表面陥没に至った。</p>	<p>トンネル天端部の難透水性風化岩に潜在的な弱部があり、そこに局所的な水圧が作用し、それが水みちとなることで地下水が噴出するとともに上部未固結帯水砂層が流出し、地表面陥没に至った。</p>

概念図凡例：■部は、未固結帯水砂層であり、福岡市資料 (\*1) の dHs2 層や dAg 層など、■部は、難透水性風化岩であり、福岡市資料 (\*1) の D2 層を指す。

\*1 例えば、地下鉄七隈線延伸建設工事における道路陥没事故と設計・施工の経緯について、福岡市交通局、平成 29 年 1 月